

エコアクション21

環境経営レポート2025

(活動対象期間：2025年1月～12月)

発行日 2026年3月31日



山懷に抱かれた清流と緑豊かな自然環境を次世代へ



《目次》

I. 会社概要	P- 3
II. 対象範囲	P- 4
III. 実施体制	P- 4
IV. 環境方針	P- 5
V. 環境目標とその実績	P- 6～ 8
VI. 環境活動計画の内容	P- 9～11
VII. 中期環境目標	P-11
VIII. 環境活動計画の取組結果とその評価、今後の取り組み内容	P-12
IX. 環境関連法規への遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	P-13
X. 代表者の全体の評価と見直し結果	P-14

I. 会社概要

- | | |
|----------------|--|
| 1) 事業所名及び代表者名 | 暁精機株式会社
代表取締役社長 大豆生田 政司 |
| 2) 所在地 | 福島県南会津郡下郷町大字高碓字人数平乙1088 |
| 3) 設立年月 | 1973年4月2日（昭和48年） |
| 4) 事業内容 | 自動車用金属部品（駆動系、エンジン部品）の製造 |
| 5) 環境管理責任者 | 管理部長 齋藤 哲 |
| 6) 連絡先 | TEL 0241-68-2325
FAX 0241-68-2566 |
| 7) 事業規模 | |
| 資本金 | 2,500万円 |
| 従業員 | 46人 |
| 床面積 | 本社工場 2,188㎡（第一工場1,451㎡ 第二工場737㎡）
事務所及び食堂 394㎡ |
| 8) 売上高(2025年度) | 9億5,060万円 |

【集合写真】



【Diff Case (Case -B)】



【Diff Case (Case -A)】



【Companion Flange】



【PIPE LUB】

【EXT/SFT類】



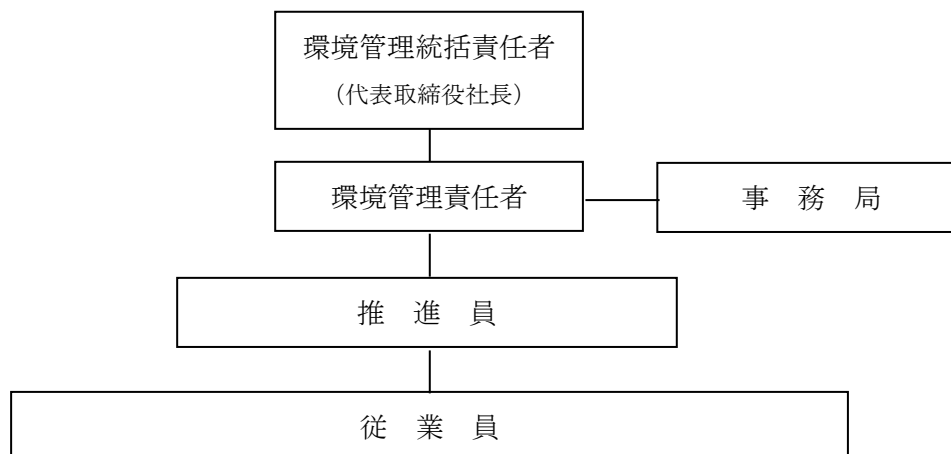
Ⅱ. 対象範囲

当社は全ての組織、全ての活動を認証登録の対象としている。

・ 認証・登録番号：０００３２１６

Ⅲ. 実施体制

組織図



役割・責任

環境管理統括責任者	・ 経営上の課題とチャンスを整理し、明確にする。 ・ 環境方針を定め、誓約する ・ 環境経営を実施するために、効果的で必要かつ十分な実施体制を構築する。 ・ 各自の役割・責任を定め、全従業員に周知する。 ・ エコアクション２１を運用し、維持するための経営資源（人的資源、専門技術・技能、資金インフラ等）を用意する。 ・ 毎年、環境経営全体の取組状況及びその効果を評価し、環境経営の方針、環境経営の目標、環境経営の計画を含む総括的な見直しを実施し、必要な指示を行う。 ・ 緊急事態発生時の総指揮の責任を負う。
環境管理責任者	・ エコアクション２１ガイドラインに従って、環境経営システムの要求事項が確立（構築）され、実施され、かつ、維持されることを確実にする。 ・ レビューや環境経営システムの改善（向上）を前提に、社長（環境管理統括責任者）に環境経営システムの運用状況、不適合、是正・予防処置の状況、その他環境経営システムに関する状況を報告する。 ・ 環境経営システムにおける責任者として率先垂範した活動をする。
事務局	・ 環境管理責任者を補佐し、環境経営システムに関する調査・分析、事務手続き、取りまとめ等をする。 ・ 環境方針を基に、指導・教育等、環境目標の達成及び会社の環境保全に寄与するための活動をする。
推進員	・ 推進員は、事務局を補佐し、部門における環境経営システムに関する指導、活動推進及び事務手続き、取りまとめ等をする。
従業員	・ 従業員は、組織の環境方針を理解し、自らの役割を十分に認識して日常業務の中で実践する。

環境経営方針

2026年1月5日

【環境理念】

当社は、清流と緑豊かな自然環境に恵まれた南会津地域で、自動車関連部品を製造しておりますが、この掛け替えのない環境を次世代へ継承する為に、地球温暖化緩和を組織で組織を確立し活動します。

【行動指針】

当社「環境理念」の実現の為に、製造及び管理部門の活動において、全社員が環境に配慮した行動に取組む。全社員は環境理念を充分に理解して、目標を定め・活動計画を設定し継続的に活動すること。

1. 環境関連法規等の遵守
事業活動に関わる環境関連法規、条例、協定など、当社が同意したその他の要求事項を遵守する。
2. 資源、エネルギー等の効率的な活用
化石燃料及び水資源等が有限である事を認識し、ISO9001 活動にリンクした省資源・省エネルギー活動を推進する。
3. 廃棄物発生量抑制とリサイクル化の推進
事業活動により発生する廃棄物の抑制及び排出した不要物の分別を徹底し、再資源化と廃棄物の削減及び適正処理に取組む。
4. 環境マネジメントの改善
上記取組を推進するために、環境マネジメントシステムの定期的見直しを行い、継続的改善を推進する。



代表取締役社長 大豆生田 政司

V. 環境目標とその実績

1) 中期環境目標

環境目標項目	基準（実績）	目標			
	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	
①加工高当り二酸化炭素排出量 (k g - CO2/百万円) (削減率)	1,236 * 1	1,224 -1%	1,211 -2%	1,199 -3%	
②加工高当り産業廃棄物等総排出量 (k g /百万円) (削減率)	55.97	55.41 -1%	54.85 -2%	54.29 -3%	
③加工高当り水使用量 (m ³ /百万円) (削減率)	2.41	2.39 -1%	2.36 -2%	2.34 -3%	
④化学物質使用量削減 * 2	対象外品 維持	対象外品 維持	対象外品 維持	対象外品 維持	
⑤事業項目 * 3					
Q : 工程不良率の削減	Q :	1,032PPM	700	700	700
C : 生産性向上（総合能率）	C :	104.5%	107.6%	110.8%	113.9%
D : 定日未納件数	D :	1 件	0	0	0
生産性向上（2021 年度に対し）		3%	6%	9%	

* 1 二酸化炭素排出量の 2024 年度実績は 0.457 を用いているが、2025 年から 2021 年 12 月 28 公表の東北電力の 0.474 を適用するに際し、基準となる 2024 年の実績を 0.474 に置き換えて算出している。

* 2 化学物質使用量削減について 2015 年度ですべてを PRTR 対象外品となったことから、2016 年度から「PRTR 対象外品使用の維持」とした。（工程で使用する物に限る）

* 3 ⑤事業項目については品質方針により定め活動する。

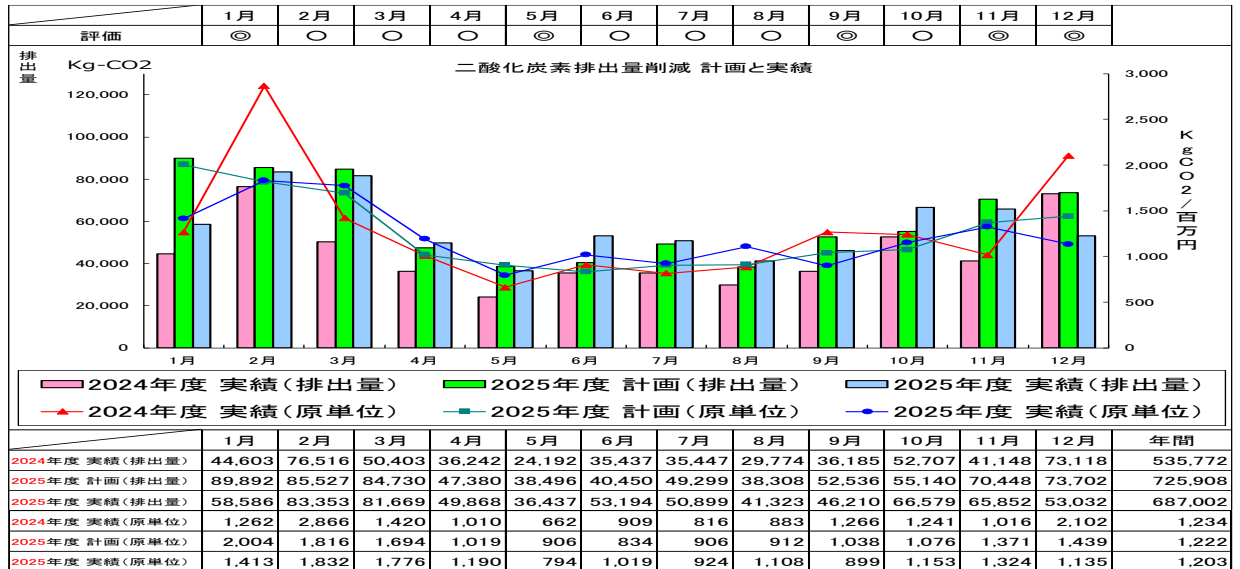
2) 実績（2025年1月～12月）

年間の実績は下記の通り。尚月別推移については 2) 環境目標プログラムに掲示する

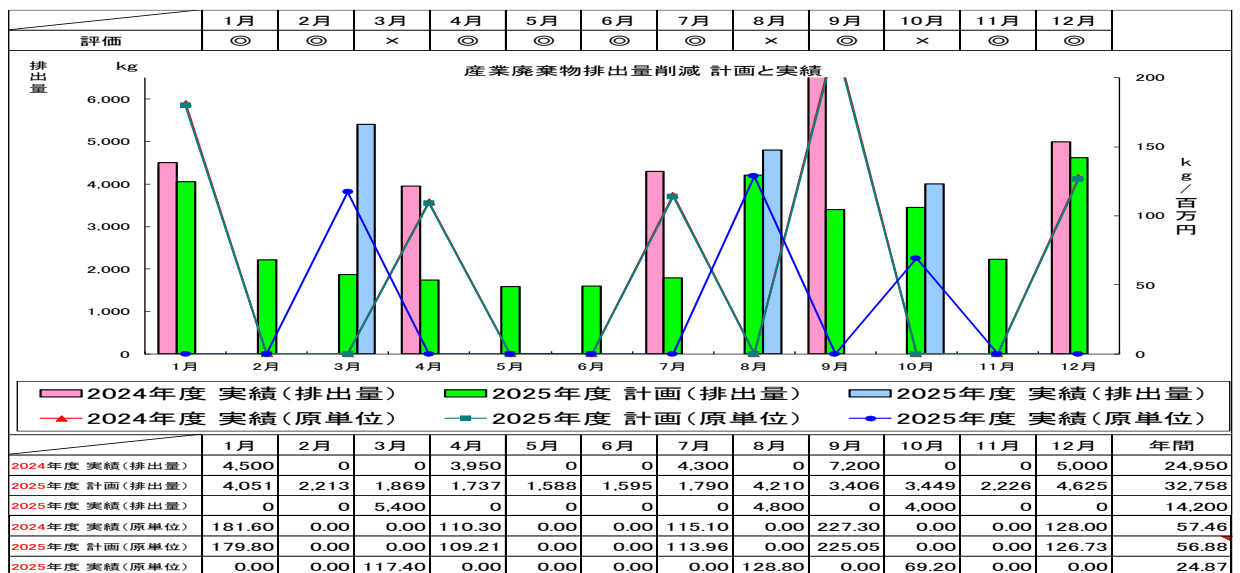
環 境 目 標 項 目		目標	実績	目標差	増減率	達成状況
① 加工高当り二酸化炭素排出量 (k g - CO2/百万円)		1,224	1,203	△21	△1.72%	達成
② 加工高当り産業廃棄物等総排出量 (k g /百万円)		55.41	24.87	△30.54	△55.12%	達成
③加工高当り総排水量 (m ³ /百万円)		2.39	1.95	△0.44	△18.41%	達成
④化学物質使用量削減 (PRTR対象外品の使用維持)		使用維持	維持	－	－	達成
⑤事業項目	Q :	700ppm	1,003PPM	303PPM	43.3%	未達成
Q : 工程不良率の削減、C : 生産性向上	C :	107.6%	109.25%	1.65%	1.53%	達成
D : 定日未納件数	D :	0件	1件	0件	1	未達成

2) 環境目標プログラム (月別推移表)

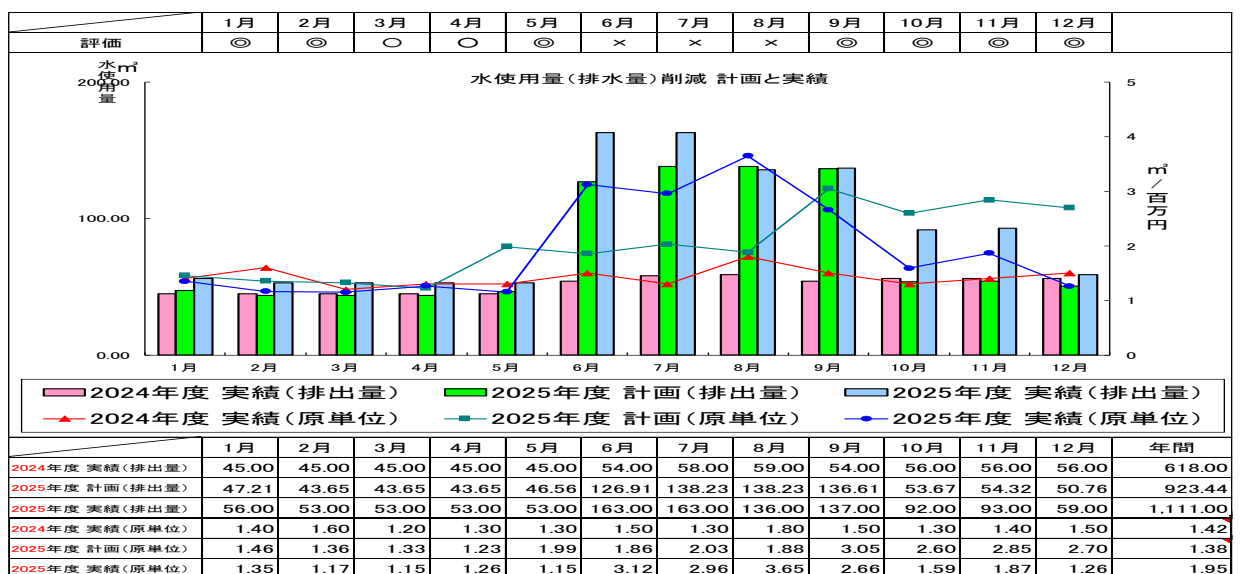
① 二酸化炭素排出量削減産業廃棄物排出量削減



② 産業廃棄物排出量削減



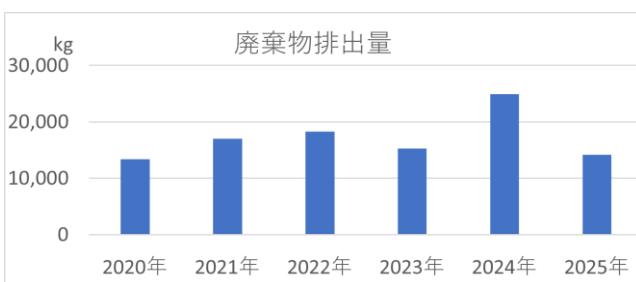
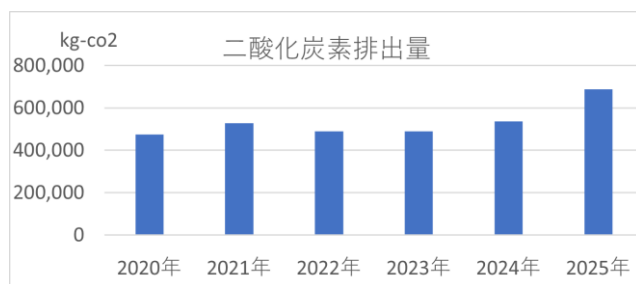
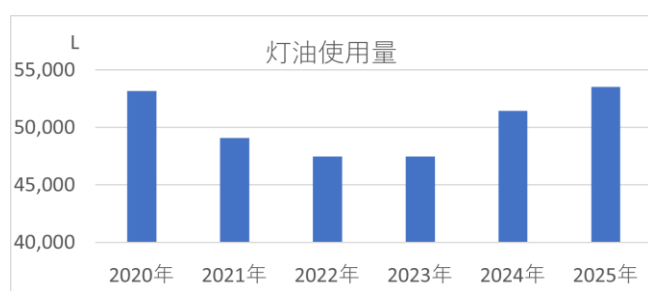
③ 水使用



主な環境負荷実績推移

項 目	単 位	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
電力使用量	kwh	636,944	755,432	798,790	803,299	881,719	1,189,327
灯油使用量	L	53,179	49,095	47,456	47,465	51,422	53,525
二酸化炭素排出量	kg-co2	474,114	527,288	488,790	489,453	535,772	687,002
二酸化炭素排出量 (加工高当たり)	kg-co2/百万	1,048	1,158	880	898	1,270	1,203
廃棄物排出量	kg	13,400	17,000	18,300	15,300	24,950	14,200
廃棄物排出量 (加工高当たり)	kg/百万	29.62	37.35	32.95	28.07	59.15	24.87
水使用量	m ³	557	618	934	1,068	1,074	1,111
水使用量 (加工高当たり)	m ³ /百万	1.23	1.36	1.68	1.96	2.55	1.95

(参考) 推移グラフ



VI. 環境活動計画の内容（継続活動）

■ CO2 排出量の削減 ～継続活動～

- ① 離席時の消灯（スイッチに表示）
- ② 非稼働設備の電源 OFF（設備に表示）
- ③ エアー漏れ調査⇒漏れ修理対応
- ④ 設備毎の使用電力調査
- ⑤ デマンド管理導入（時間軸で使用状況を把握）
- ⑥ デマンド管理導入で電力過大時をアラーム化で節電。
- ⑦ デマンド管理導入アラーム化で電力大の設備を一時的に稼働停止。
- ⑧ 電気使用量に合わせコンプレッサー切り替え（昼夜勤で電気使用量の違い有り）
- ⑨ コンプレッサー入替（インバーター化）
- ⑩ コンプレッサー入替（インバーター化 2 台目）
- ⑪ 電動シートシャッター取り付け（冬期期間の暖房効率 UP）
- ⑫ 電動シートシャッター増設。（計 2 台）
- ⑬ 工場内水銀灯切り替え⇒LED 化
- ⑭ 工場内蛍光灯切り替え⇒LED 化
- ⑮ 省エネ意識高揚 SMART PLUG 使用で使用量の見える化（10 台設置 100V 用：事務所、休憩所、給湯室）
- ⑯ 省エネ診断実施結果を踏まえ輻射熱対策として屋根にスプリンクラー設置。
- ⑰ コンプレッサー入替（インバーター化 3 台目）



■ 産業廃棄物総排出量の削減 ～継続活動～

- ① 切粉箱排水ノズル目詰り確認。
- ② 切粉箱からの切削液回収効率UP（傾斜をつける）
- ③ 切削液の切り替え（持出しの少ない油種切り替え）
- ④ エアブローによる飛散防止（エアブロー箇所メガホン取り付け）

■ 水使用量（総排水量）～継続活動～

- ① 工場使用量と生活排水調査
- ② 工場使用水道に計量メーター取り付け
- ③ 手洗い等の生活水の無駄な使用がないことに心掛ける
- ④ 自動停止センサー設置及び増設。
- ⑤ 凍結防止ヒータの点検。（凍結に水道破裂防止）
- ⑥ 節水タイプのトイレに改修（事務所）
- ⑦ 節水タイプのトイレに改修（工場）
- ⑧ 蛇口一本レバータイプ交換（節水）

■ 化学物質使用量 ～継続活動～

- ① 多い品目から価格比較し切り替え
- ② 購入する油種は全て対象外製品とし管理
- ③ （対商品目は全て対象外製品に切替済）



■ 事業項目 ～継続活動～

EQCD改善での環境負荷削減。工場の取り組み。(継続活動)

Q：工程不良率の削減：不良置場（さらし台）を利用し3現主義で対策を図る。

C：生産性向上：ライン観察で要因解析。

D：定日未納件数：生産計画の精度向上で未納0件。

- ・キャリア評価制度による取り組み：評価する側と評価される側の評価のズレを解消していく。
- ・健康経営：元気で働く職場づくりの取り組みでは福利厚生の充実及びモチベーションアップに繋がる改善。更には職場の清潔度アップ（アルコール消毒/毎日）など労働環境改善を図る。新型コロナウイルス感染症対策としても有効である手指消毒液も設置。（3か所：玄関、食堂、管理室）
- ・社用車入替：デュアリス（ガソリン車）⇒クロストレック（ハイブリッド エコカー減税対象）
【2030年度基準 80%達成/当社加工部品 3点搭載車】福島県で納車1番乗り。

CROSSTREK
クロストレック Premium S:HEV EX
AWD リニアトロニック [GUF85EW-UG]

メーカー希望小売価格 **4,053,500円** (消費税10%込)

燃費基準達成レベル	エコカー減税 重税額	環境性能割
2030年度基準 80%達成	7,500円 軽減 (25%減額)	2% 課税

PHOTO: マダネイトグレイト・メタリック

【工場管理版】



【QC サークル活動版】



【健康経営優良法人2026認証】



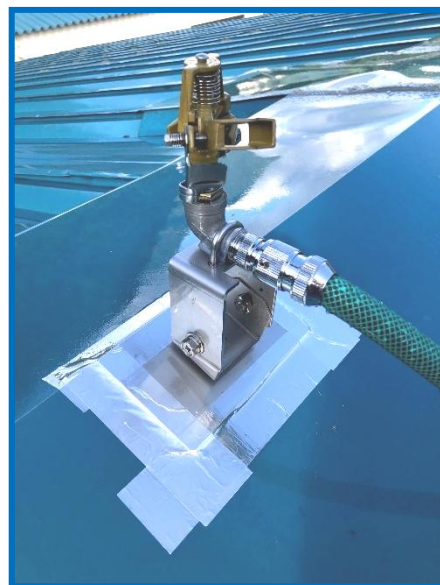
【ふくしま健康経営優良事業所2025認証】



【日除けシェード設置】



【屋根クール設置（スプリンクラー）】



VII. 中期環境計画

環境目標項目	基準	目標			
	2024年度(実績)	2025年度	2026年度	2027年度	
① 加工高当り二酸化炭素排出量(kg-CO2/百万円)	(削減率) 1,236	△1% 1,224	△2% 1,211	△3% 1,199	
②加工高当り産業廃棄物等総排出量(kg/百万円)	(削減率) 55.97	△1% 55.41	△2% 54.85	△3% 54.29	
③加工高当り水使用量(m ³ /百万円)	(削減率) 2.41	△1% 2.39	△2% 2.36	△3% 2.34	
④化学物質使用量削減	対象外品維持	対象外品維持	対象外品維持	対象外品維持	
⑤事業項目※3					
Q:工程不良率の削減(PPM)	1,032	700	700	700	
C:生産性向上【能率:(総合=参考値)直接 3%/年】	(69.0) 104.5	107.6	110.8	113.9	
D:定日未納件数	1件	0	0	0	

※1 二酸化炭素排出量の2024年度実績は0.457を用いているが、2025年から2024年度実績の0.474を適用するに際し、基準となる2024年の実績を0.474に置き換えて算出している。

※2 化学物質使用量削減について、2015年度ですべてをPRTR対象外品となったことから、2016年度以降は「PRTR対象外品使用の維持」とした。(PRTR対象外品使用の維持/工程で使用する物に限る)

※3 ⑤事業項目については品質方針により定め活動する。

VIII. 環境活動計画の取組結果とその評価、今後（2026年度）の取り組み内容

実施状況と今年度の取組	評 価
① 加工高当り二酸化炭素の排出量の削減 【実施状況】 ・ エアー漏れの確認。 ・ 意識向上を図る品質マップも活用し、環境活動計画の継続活動を展開し取組を進めることができた。SUMART PLUG（100Vコンセント用メーターを設置）10台設置 【2026年度の重点取組】 ・ 応接室 蛍光灯切り替え検討⇒LED化（3台あり）	・ 目標に対し△1.72%減で達成出来た。リテーナ急増に伴い電気使用量も増えてきたが、売上も伸び大きく寄与した。更に新規受注の3点の（デフケース、ギヤリダクション、PIPE-LUB）いずれも順調に売り上げが伸びている。 ・ 仕事量増に伴い電気使用量は増えて来たが節電意識がルーズにならぬよう継続的な節電意識を維持していく。 ・ 昨年出来なかった応接室の照明をLED化していく。
② 産業廃棄物の削減 【実施状況】 ・ 継続活動を踏まえ、日常作業の中で切粉に付着する切削液を少なくするかに気を配り、継続活動としての取組が実施できた。 【2026年度の重点取組】 ・ 腐敗しにくく持出しの少ない油種に切替⇒対象設備増。切削液の勉強会実施（継続）	・ 目標に対し△55.12%減で達成出来た。 ・ 新規受注3点の受注に伴い水溶性切削液の使用量も多くなる傾向だが無駄の無い使用が定着出来ていると判断している。 ・ 継続活動の切粉台車目詰まり対策は引き続き継続活動に取り組むと共に創意工夫で取組を進めていく。
③水使用量の削減 【実施状況】 ・ 手洗い等の節水は当たり前のこととして実施できていること、トイレの節水タイプへの改修等、継続活動の取組が実施できた。 【2026年度の重点取組】 ・ 夏季期間（6月～10月）週末電源OFF管理（屋根クールの稼働カレンダー管理設定） ・ 切削液の勉強会実施（継続）	・ 目標に対し△18.41%減で達成出来た。 ・ 環境改善の取組みで夏季の暑さ対策で屋根にスプリンクラーで水散布を取入れ環境改善を図りながらも仕事量も増え成果が出ている。（5月～9月まで利用） ・ 水使用量が増えていながら労働環境改善にも取り組み環境改善を推進していく。
④化学物質使用量の管理 【実施状況】 ・ 結果として切削液等の変更はなかったが、購入検討に際し、SDSによりPRTR対象物質の有無の確認は実施した。 【2026年度の重点取組】 ・ PRTR対象外製品の維持	・ 切削液等の変更はなく、従来通りPRTR対象外製品の使用維持ができた。 ・ 引き続き油種変更TRYする時、事前に価格とともにSDSにより調査し、PRTR対象物質を含まないことを確認して維持していく。

⑤事業項目 【実施状況】 ・日常的にQMSの中でQCDを指標とする工場の取り組みとともに日々その指標に対するデータ収集、要因解析、対策等をリアルタイムで対処し取り組んだ。(継続活動) 【2026年度の重点取組】 Q：QC検定4級 全員取得に向け取組む。 C：取組む製品を定め出来高向上。 D：生産計画の精度向上。	・工程不良率、定日納入率は大量不良が2件発生し未達となった。 ・生産性については1.53%向上し達成できた。 ・工程不良では700ppmのところ1,003ppmで43.3%増となり7月に発生してしまった104137857ケース取付孔径プラスで256ヶ、0876778702カバーφ56内径プラスで330ヶの大量不良が大きく影響した。生産数の多いアイテムだけに3現主義を活用し削減する。 ・定日納入不良では発注を見落とし1件発生となる。 ・QC検定4級取得全員の目標には達成。今後の中途採用者に対しても教育を行い、入社1年後には取得していく。
--	--

IX. 環境関連法規への遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

1) 当社に適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	概要	遵守状況
福島県生活環境保全条例（騒音）	・特定施設（コンプレッサー）届出 ・騒音基準の遵守	遵 法
福島県産業廃棄物等適正化条例	・産業廃棄物管理責任者の選任	遵 法
廃棄物処理法	・委託契約の締結 ・マニフェストの交付と管理 ・マニフェスト交付等の報告 ・適正な保管管理 ・処理状況の確認	遵 法
消防法	・灯油タンクの届出 ・保安監督者の選任と届出 ・保安講習の受講	遵 法
浄化槽法	・定期検査及び定期点検	遵 法
省エネ法（特定事業者となる場合）	・特定事業者となる場合は定期報告	遵 法 (該当なし)
P R T R法	・第一種指定化学物質の所定量以上使用する場合は排出量等の把握と届出	遵 法 (該当なし)
フロン排出抑制法	・エアコン（7.5kW未満）簡易点検と記録	遵 法

2) 2025年1月24日に遵守チェックした結果、環境関連法規への違反はありませんでした。

また、関係当局より違反の指摘や訴訟についても創業以来ありません。

X. 代表者の全体の評価と見直し・指示

2025年は新たな中期目標のスタートの年であり現状を把握し各部署で達成に向け施策を立てる年である。幸先の良いスタートで二酸化炭素排出量の削減、産業廃棄物の削減、水使用量の削減の3本柱を目標達成が出来たのは喜ばしい事である。いずれも新規受注3点（デフケース、ギヤリダクション、PIPE-LUB）が順調で売り上げが伸び貢献しているが主力製品となるべく製品群であり品質意識と同等に環境活動にも意識して取り組んでいく事。受注数が増える情報の中で時差体制、勤務体制の見直しも視野に入れ対応していかなければならない。仕事量が増える中で電気使用量も増加してくるがデマンド管理で使用状況を見極め無駄なく稼働させていく。

二酸化炭素排出量は、目標に対し△1.72%増で達成できた。コンプレッサーの始業就業時間を稼働時間ギリギリの調整も定着してきたことで大きく寄与している。「効率のよいものづくり」をモットーに継続活動を進めて行く。

産業廃棄物総排出量は、目標に対し△55.12%減で達成できた。水溶性切削液の廃棄を2024年比56.9%までに抑える事が出来た。約半減という廃棄量で今後も腐敗させない取り組みを継続して行く。切削液を腐敗させない知識を深め地道なことではあるが削減活動に繋げて行く。更には大雨に対するグレーチング設置範囲が適正であるか確認し敷地内に入り込まないように町役場と共に対策を実施していく。（継続活動）

水使用量は、目標に対し△18.41%減で達成出来た。日常の当たり前継続活動が寄与している。労働環境は年々厳しさを増すばかりであるが屋根クールを効率よく管理し労働環境を継続的に改善しながら、健康経営も交え対策検討の必要性を感じている。

化学物質使用量は、継続活動の新規に取り扱う油種に関しても確実にPRTR法該当品を使用せず活動する事が重要な取組みである。

事業項目では生産性を除き未達となる。工程不良率、定日納入率は大量不良発生により未達成。日頃から自分たちで決めたルールを守る習慣の定着活動中なだけに非常に残念である。

2026年は改めてルールを守る為の活動に焦点をしぼり活動していく。特に目視で判断する品質管理項目では一見すればすぐ分かるものでも見慣れてしまうと異常が見えなくなってしまう盲点がある。いつもと違うと感じたレベルで現場から打ち上げ三現主義で取り組む事。

環境についてはエコアクション21による環境経営の継続を通じ、緑豊かな南会津の風土の維持に寄与していかなければならない。環境経営の方針に変更は要しない。全員がしっかりと認識し行動し環境経営の目標は変わりゆく自然環境も見据え一歩先を見て環境経営計画の継続活動を取り組み、達成を目指すこと。また、実施体制は現在の体制を維持すると共に各自の役割・責任をよく認識し対応すること。これからも全従業員で活動に取り組み更なる改善の気持ちを推進できるよう期待している。